



進路便り 1月号



●「人手」と「人材」

冬休みにアルバイトを経験した人もいると思います。お金を稼ぐことの大変さや、仕事のやりがいなどを感じることができたのではないのでしょうか。

高校生がやらせてもらえる仕事の多くは「誰でもできる」仕事で、「人手」として雇われているのだと思います。「人手」とは誰がやっても変わらない仕事に携わる人のことを言います。

それに対して、それを行う人によって成果が大きく変わってくる、そのような仕事に携わっている人のことを「人材」と言います。「人手」と「人材」で、やりがい大きいのはどちらでしょうか。

喜界高校の3年間の教育活動（授業・検定・部活動・学校行事など）は、皆さんが「人材」として活躍するための基礎となる力を身につけるためのものなのです。

●「学び方」を学ぶ

福沢諭吉が主人公のテレビドラマを以前視聴したことがあります。江戸時代、インターネットどころか、辞書もない時代に、彼は苦勞に苦勞を重ねてオランダ語を身につけました。しかし、幕末になり、日本にとっての「外国」はアメリカへと変わりました。オランダ語は不要となり、英語の能力が必要になりました。しかし、彼は短期間で英語を習得できました。それは苦勞してオランダ語を身につけることで、外国語の「学び方」を学んでいたからです。

皆さんが高校で学んでいるもので、卒業後すぐに役に立つようなものは多くはないと思います。しかし、10年後、20年後、時代が変化し、何か新しいことを習得する必要が出てきたときに「学び方」を学んでいた人は対応でき、人材として活躍できます。

●「部活動のススメ」

2021年、ぜひ部活動にしっかり取り組んで欲しいと思います。部活動は単なる娯楽ではありません。皆さんの人格形成に大きな影響を与えることから、日本の学校教育の中に組み入れられているのだと思います。また、部活動に懸命に取り組んできた人は、就職活動や入試においても、アドバンテージがあります。皆さんが進路で競う相手は喜界高校生ではなく、部活動にも必死に取り組んできた島外の生徒であることを忘れないでください。

企業や大学は、野球やサッカーの技術が高い人や、楽器を上手く演奏できる人を必要としているのでしょうか。決してそうではありません。強くなるため、上手くなるために必死で努力を積み重ねてきた人、考え、悩み、工夫してきた人、周囲の人々とコミュニケーションを取り、助け合ってきた人、失敗したときの悔しさ、成功したときの喜びを知っている人、そのような人を必要としているのではないのでしょうか。

仕事で成果を上げるためには、苦しいことや嫌なことも乗り越えなければなりません。ただ言われたことをそのままやればよいというものではなく、自分で考え工夫できる能力が必要です。また、どんな仕事でも自分一人で完結するものではありません。周囲の人々と連携して、助け合わなければいい仕事はできません。そして苦勞の成果が現れたときの喜びは何事にも代え難く、次またがんばるためのモチベーションとなります。

これは大学での研究や専門学校での勉強でも同じことが言えます。

大学での研究とは、準備された教材にただ取り組み、暗記すればいいというものではありません。まだ正解がないものについて自分で調査し、考察していきます。それには創意工夫が必要です。また、研究は一人の力ではできません。周囲の人々の協力を得ながら行います。そして、成果が現れたときに大きな喜びを分かち合うことができます。

専門学校では様々な資格や技術を身につけるために勉強します。短期間で誰でも取れるような資格は卒業後全く役に立ちません。しかし、長期間、努力を積み重ねないと身につかない技術や資格を手に入れた人は、卒業後「人材」として、それらをおおいに活かすことができます。

1～2年後の就職活動や受験に有利であるということで、部活動を奨めるものではありません。生涯にわたって必要となる力を身につける絶好の機会なのです。

3年生は、部活動で完全燃焼できなかった人が多いのではないのでしょうか。進路が決定した人は、顧問の先生に連絡して、ぜひ、後輩たちとともに部活動に参加してください。